



左幅(竹梅に鶴)



右幅(松薔薇に鶴)



中幅(東方朔)

9 松薔薇に鶴・竹梅に鶴図

狩野探信 二幅(三幅対のうち)

絹本着色 江戸時代(十七〜十八世紀)
本紙各一三〇・三×六六・八

No.8と同様、東方朔を中心に置き、左右に配置する花鳥図である。本作品の場合は、松竹と鶴をテーマにしたものが描かれている。この両幅においても、中国画にみられる形態を取り入れており、丁寧な筆致、彩色が行われている。

探信(一六五三〜一七一八)は、探幽の長男。父に学んで山水人物をよくしたと伝えられる。延宝二年(二六七四)に父の跡を継いで相続、法眼となった。遺品が少ないせいか、あまり評価されない画師であるが、本作品は、丁寧に細緻な表現が行き届いており、構図、描写法ともに探幽によく学び、継承したことが知られる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections